

2013（平成 25）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

- 清教学園の目指す人間像
- ①神を信じ誠実に仕える
 - ②真理を学び賜物を生かす
 - ③隣人と共に平和を築く

2 中期的目標：教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上

- 1 教育の質的向上
 - (1) 学力伸張を図る
 - (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
 - (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する
- 2 生徒における学校生活の充実
 - (1) 特別活動の充実
 - (2) 生徒指導の充実
 - (3) 生徒支援
- 3 環境整備力の向上
 - (1) 施設の充実
 - (2) 外部環境への対応
 - (3) 情報の共有化と発信力の促進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析 [平成 25 年 11 月・12 月実施分] | 学校評価委員会からの意見 |
|--|---|
| <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は充実した学校生活を送っている (中学生：85.8%、高校生：83.2%) ・授業の理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる (中学生：76.8%、高校生：72.5%) ・部活動は勉強の時間が確保されるように配慮されている (中学生：68.4%、高校生：57.9%) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合い等に入学を勧める (中学保護者：84.6%、高校保護者：82.6%) ・生徒は充実した学校生活を送っている (中学保護者：94.0%、高校保護者：93.1%) ・熱心に指導してくれる教員が多い (中学保護者：89.2%、高校保護者：90.7%) ・災害や不審者から生徒の身を守ることができるよう配慮している (中学保護者：89.8%、高校保護者：89.0%) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は充実した学校生活を送っている。(94.1%) ・いじめや暴力のない学校作りに取り組んでいる。(94.1%) <p>【分析】次年度に向けての取り組み課題より</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「学園で学ぶ事に対する誇り」は、昨年度に引き続き低下しており、生徒の自己肯定感を高める取り組みが必要である。中学でのコミュニケーションワーク継続、教員のカウンセリングマインド養成に向けての研修等、改善策の実施を計画している。 ②「将来働きたい仕事をイメージするための情報提供」では、中学での評価が低い。6年を見通したキャリア教育を次年度より行っていきたい。 ③「部活動は勉強の時間が確保できるように配慮されている」では、中学・高校とも生徒の評価が高くない。特に高校では40%を超える生徒が配慮不足としている。部活動の時間を削減する必要がある。 ④「自習室は利用しやすい」では、高校3年生以外の評価が低い。どの学年においても自習ができる環境を保証していく必要がある。 ④公平な教員が多いについては、教員では87%と高い評価であるが、生徒は全校で56%と厳しい評価である。どのような場面で不公平を感じるか、生徒の声を聞く必要がある。 | <p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。 2013（平成 25）年度については、2014（平成 26）年 3 月 29 日に開催</p> <p><意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆こうした取り組みによりレベルが上がるものだから、うまく生かしてほしい。心の教育については、ハンセン病フィールドワークを継続し、良い交わりをさらに続けてほしいが、他方で新機軸についても検討を本格化するべき時期であろう。また、寄贈されたキリスト教書籍の活用も検討されたい。そのほか、自習室を高3以外にもサービスしていく件は、教育機会の公平性の観点からぜひ進めてほしい。 ◆毎年のアンケートになっており、前年度結果を受けた重点改善施策がどのような形で進められ、どんな結果になったかについて、蓄積データから時系列と変遷理由を添えるようにしてもよいのではないか。 ◆良い結果が出ている点をもっとアピールすべきである。文武両道、国際交流、図書館教育といったオリジナリティをもっと外部発信されたい。その意味でも、部活動に関する不満については、単に削減といった形でない解決も模索してほしい。 ◆学園で学ぶ誇りという点での結果の低さが気にかかる。一人ひとりが大切な存在であることを子供たちが分かるようにさらに工夫をされたい。 ◆各グループで異なる結果データになっているものはしっかりフォローすべきである。 ◆グローバル人材を育てるとなると、部活動との関係を再考する必要も出てくる。「生徒自身ができる」という見方を教員がどれだけ持てるかにも懸っている。 ◆アンケート等での作業の多さを見ると、資料作成の手間も少なくないだろうと想像される。アンケートはあくまでも参考程度でよいのではないか。 ◆大学ではこうした自己評価の実施は厳しくなっているが、評価疲れといった面も出ている。大学では、目標を立て、それに対して各教職員がどこまでできているかが大切になる。計画と実行との関係状況を確認するのが評価である。アンケートはそうしたサイクルを助ける要素であればよいのではないか。 ◆学校に誇りを持ってもらうのは、たしかに難しいことである。そのためには、授業の形でしっかりと学校の歴史を教えるのがよい。そのためのテキストも必要であろう。各時代の背景も踏まえての学校史を教えるというところから改善のヒントを得られるかもしれない。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--------------|--------------------|--|---|---|
| 1 教育の質的向上 | (1) 自主・自律意識の育成 | <p>こころの教育の充実</p> <p>①愛校心・人権感覚の育成、②礼拝の積極的参加と工夫、③ボランティア活動の推奨、④校内美化・生活習慣の向上</p> | <p>評価アンケートにおけるそれぞれの設問について、4つの回答カテゴリーを設定し、「AとBを合わせた割合が75%程度に達しているか」を判断基準とする。</p> <p>A：よく当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない</p> <p>本報告書の末尾に付記した<備考>も参照。</p> | <p>(1) 【学園の教育理念】</p> <p>対象者すべての領域で「充実した学校生活を送っている」という点において高い評価を得ているが、「学園の目指す人間像」については学年により評価が異なる。これは成長段階の違いが反映したためと思われる。引き続き、礼拝や聖書科授業等を通じて建学の精神を伝えられるよう努めると同時に、生徒の自己肯定感を高める取り組みを進めていきたい。</p> <p>【心の教育】</p> <p>中・高双方において、生徒も保護者も、礼拝や聖書の授業をはじめ、学園が教育全般において宗教・人権教育を大切にしていることを理解していただいている。今後も「他者への思いやり」を育てる学園という姿への賛同をいただけるよう、教職員全員で取り組みを進めたい。</p> |
| | (2) コミュニケーション能力の育成 | <p>①表現力や発表力を促す企画、②リーダーシップの育成、③国際交流の活発化、④英語環境の整備/実践的英語教育への本校独自のアプローチ、⑤SSTの具体的実践</p> | | <p>(2) 【英語教育】・【国際交流】</p> <p>中1から高3のすべての学年で英語学習への評価が高かった。また、学んだことを生かし、自己を表現する機会でもある国際交流については、学びの蓄積にしたがって評価が上がる傾向が見られる。取り組みの意味を生徒が理解していることの表れと見ることができ、今後も生徒の意識喚起を継続したい。</p> <p>(英語の授業に関するアンケート結果： AおよびBと回答した割合は、中学生が88.4%、高校生が78.2%)</p> <p>(国際交流に関するアンケート結果：AおよびBと回答した割合は、中学生が75.7%、高校生が77.6%、中学生保護者が91.2%、高校生保護者が88.5%)</p> |
| | (3) 進路指導の充実 | <p>教育力や指導力の向上</p> <p>①幅広い学力層への指導、②進路イメージを形成する企画、③授業参観や研修の促進、④興味関心を引き出す授業の推進、⑤教育内容の可視化、⑥電子黒板の活用、⑦教員研修の制度化、⑧S特進コースの特色化(6年コース/3年コース別の学習対策、進学実績の向上)、⑨大学連携コースの特色化(基礎学力や語学力の形成、自己表現力の育成)</p> | | <p>(3) 【学習指導】</p> <p>中・高各教科とも、さらなる学力向上への期待が寄せられている。学園として、その期待に応えられる取り組みをいっそう多面的に行う必要性を改めて認識すると同時に、「授業の理解が不十分な時に面倒をよく見てくれる」という項目で高い評価をいただいたことを励みに、ますます努力を続けたい。なお、電子黒板による学習環境の整備も概ね効果が認められたが、学年による評価の違いが生じたことを受け、さらに細やかな調査・改善に努める必要性が出ている。</p> <p>【進路指導】</p> <p>卒業生による進路講演会、PTAによる職業紹介誌「Navi」の発行やNaviゼミの開催など、本校独自の有意義な指導・企画への理解が深まっている。ただ、将来への夢をつくるための教育については、とりわけ中学生の評価が予想以下であったことを受け、6年を見通した教育プランとして再構築できるよう工夫を行ないたい。</p> |

| | | | | | |
|---|---------------|-------------------|---|---|---|
| 2 | 生徒における学校生活の充実 | (1) 特別活動の充実 | 特別活動を通じ、生徒の自主的な活動意欲や創意工夫の態度を育てる。また、集団活動を通して共に学び、共に生きる思いやりの心や創造力豊かな人格の育成を図る。 | 評価アンケートにおけるそれぞれの設問について、4つの回答カテゴリーを設定し、「AとBを合わせた割合が75%程度に達しているか」を判断基準とする。 A：よく当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない 本報告書の末尾に付記した<備考>も参照。 | (1)【特別活動】 あらゆる学校行事を企画力・リーダーシップ・協調性が育まれる機会と考える本校では、生徒たちが主体的に行事や課外活動に取り組める工夫を重ねている。ただ、勉学と部活動との両立については対象者の全領域において配慮の必要性を感じており、部活動にあてる時間の見直しなどの工夫も求められる。 (2)【生活指導】 とりわけ「いじめ」に関する事項では、対象者間での評価の乖離がないように配慮すると同時に、いじめを絶対に許さないという姿勢を引き続き徹底したい。 (3)【生徒支援】 「保健室だより」やホームルームでの指導が効果を得て、保健教育に関する理解は進んでいる。今後も、学校のみならず保護者との協力関係において、生徒の健康管理意識の向上を図りたい。また、貸出数が府内トップの図書教育には、引き続き高い評価が与えられている。これは自主的な学びを促す本校の学習環境に対する信頼の表れと捉えられる。ただし、高校生の利用の便を整えるという課題は依然残っている。また、国際交流は、各種の取り組みにより、生徒自身における意識の向上も見られた。 |
| | | (2) 生徒指導の充実 | 家庭との連絡を密にしながら、学校生活や集団生活をすすめる上での基本的な生活習慣が修得できるよう恒常的な指導をおこなう。また、社会ルールを尊重する品格ある態度の育成や校内美化に努め、学校内外の生活における安全意識の向上に努める。 | | |
| | | (3) 生徒支援 | ①学校保健 … 疾病の予防や環境衛生、健康管理に留意した保健計画を立て、それらの指導を充実する。また、救急時における応急処置技術の向上に努める。さらには、教職員や保護者との密接な連絡確認と情報提供に努める。 ②教育相談 … 学校生活への不応等がある生徒に対し、保護者と緊密な連絡を取り、適切な教育相談をおこなう。また、学年会議やカウンセリング協議会等で情報や意見の交換を実施、状況に応じて校内・校外カウンセラー・専門機関の助言や助けを得るなど、専門家との連携や機関の活用によって生徒の自己回復を支援する。 ③学校図書館 … 精神発達期における学校図書館の役割を重視し、生徒の自発的な学びを支援するため教科とも連携した教育活動をおこなう。同時に、蔵書管理やシステム管理を計画的に整備し、生徒が利用しやすい環境の構築に努める。 ④国際交流 … 「隣人と共に平和を築く」という精神を理解し、世界で活躍できる生徒を育成するため、文化や国籍の違いを超えて国際理解が深まる取り組みを推進する。 | | |
| 3 | 環境整備力の向上 | (1) 施設の充実 | 自習室の充実 ・監督をもれなく配置 ・開室時間を19時まで延長 ・全学年での自習支援体制の整備 | 評価アンケートにおけるそれぞれの設問について、4つの回答カテゴリーを設定し、「AとBを合わせた割合が75%程度に達しているか」を判断基準とする。 A：よく当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない 本報告書の末尾に付記した<備考>も参照。 | (1)【施設・設備の充実】 ここ数年のトイレ改修により満足度の向上が見られる。ただ、これも数年来の課題である自習室環境の整備については、概ね効果が認められてはきたものの、学年による評価の違いが生じており、依然としてさらに細やかな調査・改善を要する段階であると認識している。また、食堂の利用のしやすさにも配慮が必要である。 (2)【学校運営への評価】 家庭への連絡の適切さは、引き続き高い評価であった。生徒・保護者との信頼関係をより高められるよう、さらに配慮を図りたい。 (3)【情報発信】 広報誌やウェブでの情報発信については、今まで以上に生徒からの関心を高める工夫が求められており、教育内容や活動への理解が進むようにさらに工夫を重ねたい。 |
| | | (2) 外部環境への対応 | ニーズに応える教育環境の促進 ・教員研修 ・家庭との密な連絡 | | |
| | | (3) 情報の共有化と発信力の向上 | 情報の学内周知および啓発、学園の教育力や魅力の発信 ・情報の学内周知とフィードバック ・ホームページのさらなる改善 | | |

<備考> 「よりよい学校づくりのためのアンケート」の結果概要 * 「よく当てはまる」・「やや当てはまる」という肯定的回答の割合 (%)

| | 教育内容・生徒支援 | | | | | | | 学校運営 | | | |
|-------|------------------|------------------|------------------------|----------------------|--------------------|--------------------|----------------|----------------------|------------------|----------------------|----------------|
| | 学園が目指す人間像を理解している | 宗教・人権教育が重視されている。 | 学力向上につながる授業が多い(5教科平均)注 | 将来の進路・職業に適切な指導を行っている | 学校行事には生徒は積極的に参加できる | 規則遵守や美化意識等の向上が見られる | 図書館教育は知的関心を高める | 教員は指導熱心で、家庭と密に連絡している | トイレを含む設備が整備されている | ウェブ等は学園の取り組みを知るのに役立つ | P T A 活動が盛んである |
| 中学生 | 66.8 | 77.4 | 86.1 | 59.0 | 82.5 | 79.4 | 78.6 | 80.5 | 84.6 | 69.8 | 75.8 |
| 高校生 | 65.0 | 83.0 | 75.6 | 69.9 | 71.5 | 79.9 | 60.7 | 80.8 | 84.8 | 60.2 | 69.8 |
| 中学保護者 | 80.4 | 91.7 | 74.0 | 77.7 | 93.6 | 91.7 | 90.1 | 87.3 | 86.1 | 89.0 | 94.7 |
| 高校保護者 | 86.4 | 89.9 | 70.5 | 83.2 | 88.4 | 93.2 | 84.7 | 88.7 | 85.0 | 86.7 | 91.1 |

(注) 保護者は「十分な学力がつく」「理解が不十分なきに面倒を見てくれる」の項目で計上。中学生のみの項目「電子黒板は学習理解を深める」には91.3%が肯定的回答。